



卓-て、

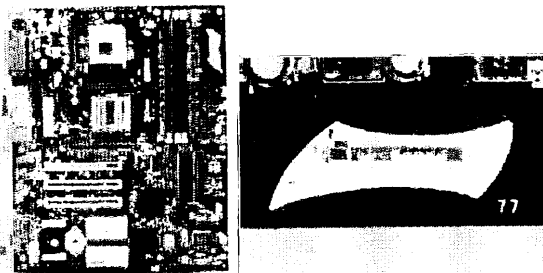
梶ノ木隆のPC実験室

真空管アンプ搭載マザー「Aopen AX4B533-TUBE」を試す

今年6月のCOMPUTEX TAIPEIでAOpenのブースに展示され、その発想の奇抜さで話題を集めたのが「AX4B-533 Tube」である。一見通常のアンプに見えるが、オーディオのアナログ出力に真空管を利用したアンプ搭載するという、非常に「アナログ」なマザーボードである。その効果はいかほどなものか、という事で早速ためしてみた。

マザーボード上に真空管アンプを実装

AOpenから登場した卿は、同社製品である卿(日本では未発売)をベースとし、サウンド出力部に真空管アンプを搭載したPentium 4/Celeron向けマザーボードである。真空管を使ったオーディオアンプといえば、懐かしさを覚える読者もおられるだろうが、広く普及した半導体アンプや、最近主流のデジタルアンプには無い「味」を求めて、今も一部のオーディオマニアの間では使われているし、そうした層を狙った製品や組み立てキットも今なお存在している。本製品では、PCIスロット3本とcNRスロットをAX4B-533から取り除き、空いた場所に真空管アンプを実装AC'97 Codecのオーディオ出力をここに直結することで、「味のある音声出力」ができることをウリとしている。



AOpenのAX4B-533デジタルとアナログの融合
Tube. 上部3分の2をを成功させたことを示す
見れば普通のATX「Tube Sound
マザーだが、-F部がTECHNOLOGY」のエンブ
ちょっと異様な光景 レム

【追記: Qi ン/ム' / i', '-?'.), ン>. - . 'a-Jこバ ^'. い二JL記札.;)¥v; ;i上し- / -x)1読X;. 同し溢号a-)ボードを持っているとい.I)ご教示がMましたU)で削除いたしました

なお、本製品は現在では入手がかなり困難となっている。それもそのはずで、本製品はAOpenの塵塵丑企で「100枚限定予約販売」という形態を取られたからだ。本来は日本市場に投入するつもりがなかったため、このような限定販売になったそうだが、それだけ日本国内での販売を望む声があったということだろう。購入価格は25,000円(その後米国からの直輸入品が秋葉原の店頭でも並んだ)0

真空管アンプ搭載という時点で、イロモノ的な匂いがしてくるこの製品だが、限定予約販売というオマケがついて、さらに食指を動かされる製品となっている。マザーボード上には真空管アンプ搭載をア